

12月の 園便り



「むふふと
はんだん」

23年 新潟青陵幼稚園 加藤由美子

『積み木を使って基地を作って遊んでいたA君、そこへB君がきて「僕もそれ使う」と積み木を持っていこうとしました。「だめ、それ使ってる!」といいましたが、B君は持って行ってしまいました。怒ったA君はB君をじっとにらむように見ていました。きつと怒りをどう表現していいか分からず、言葉もうまく出てこなかったのでしょう。その様子を見ていたC君がうしろから「〇〇であそぶ?」と聞きました。B君は聞こえないかのように立ったままです。C君はもう一度「〇〇つくったんだけどあそぶ?」と聞きました。すると、A君はゆっくりと振り向いて、C君と一緒に遊び始めました。』

積み木をとられて困っている友だちを気遣って、別の遊びに誘ってあげている赤ばらさん(年少)の姿です。この事例だけを見ると、C君という子が最初から思いやりをもっている子どものようにみえますが、そうではないのですね。A君もB君もC君もそして他の子どもたちもみ～んなそうですが、おもちゃを取ったり取られたり、意地悪な言葉をいったり泣いたり叩いたりしてきました。そして友だちとのもつれを、担任にほぐしてもらい慰めてもらって、気持ちを切り替える経験をたくさんしてきたのです。経験してきたからこそ、自分が第三者の立場であった時には、その様子を冷静に見て、友だちの気持ちを感じることができて、“友だちのために心をつかう”ということができるようになっていきます。もちろん、自分が当事者の場合はそうはいかないのですけれどね・・・こうして友だちに気持ちを切り変えてもらった子どもたちは、担任にしてもらったときより、ずっと嬉しいことでしょう。友だちに大事にしてもらっていることがじかに伝わってくるのですから——このことはやがて、お互いに相手を思いやることができるようになり、子どもたちの間に温かなかわりが広がっていくことに繋がります。

幼児期は自分で学ぶことができる時期なのです、子どもが自分自身で学んでいくことができるように、保育者は、余計な手出し口出しをするのではなく、必要なときにすぐに支えとなることできるように見守りながら待つ姿勢でいるのです。むやみに手出し口出しをしていたのでは、子ども自身が感じ、考えるという機会を奪ってしまうことになっていきますから・・・前述のような子ども自身の学びは、遊び＝しかも、子ども自身が主体的に作り出す遊びであること＝を通して日々繰り返されています。こんなに貴重な“学びとしての遊び”なのですが、幼児期の遊びがどういふものなのかが、まだまだ理解が広がってなくて、残念な思いがします。

12月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	木	○	2:00	ろうそく作りの日です。	
2	金	○	2:00		
3	土	×	11:30	自由登園日です。	
4	日	/	/		
5	月	○	2:00		
6	火	○	2:00	ろうそく作りの日です。	
7	水	○	2:00		
8	木	○	2:00	ろうそく作りの日です。	
9	金	○	2:00		
10	土	/	/	第2土曜日	
11	日	/	/		
12	月	○	2:00		
13	火	○	2:00	ろうそく作りの日です。	
14	水	×	11:30	誕生会です。12月生まれさんの保護者の皆様、ご一緒にお祝いしましょう。	
15	木	○	2:00		
16	金	○	2:00		
17	土	×		アドヴェントの庭を行います。詳しくは各クラスのお便りをご覧ください	
18	日	/	/		
19	月	○	2:00		
20	火	○	2:00	本日で給食が終わります。	
21	水	×	11:30	午前保育です。降園時間が早くなります。	
22	木	×	11:30	終業式です。	
23	金	/	/	天皇誕生日	
24	土	/	/	第4土曜日	
25	日	/	/		
26	月	/	/	星の子はあります。ご利用ください。	
27	火	/	/	〃	
28	水	/	/	〃	1月の星の子は4日(水)からです。
29	木	/	/	冬季休業	
30	金	/	/	〃	
31	土	/	/	〃	